

令和5年第3回大野城市議会 6月定例会一般質問通告

○本会議（3日目）一般質問

令和5年6月19日（月） 午前9時30分（於 議 場）

議員氏名	件 名
井福 大昌	<p>1. ランドセルクラブ（学童）の現場の声について</p> <p>(1) 委託業者選定がプロポーザル方式になりましたが、何か現場スタッフや保護者・児童からのフィードバックはありますか</p> <p>(2) 委託業務の仕様書について</p> <p>(3) 教室の利用について</p> <p>(4) 児童数1000人を擁する大野小学校では、以前より学童の本所建屋の増築や改築を望む声があがっていましたが、増築・改築できていない理由を教えてください</p> <p>(5) 本市仕様書には「満足度の高い保教育を提供していくとともに～中略～保護者が安心して預けること」と書いてありますが、最後に、これらのランドセルクラブ事業のそもそもの理念と学童と統合された目的をあらためて詳しくお聞かせください。そして、その理念と目的にそって、これらの諸問題をどう具体的に解決していくか、教育長におたずねします</p>
森 和也	<p>1. 児童見守りシステム（通学見守りシステム）について</p> <p>(1) システム導入を、今年度の施政方針で表明されたが、システム導入に至った経緯を教えてください</p> <p>(2) 総務省が示している、五つの代表的なシステム構築パターンとして、①見守り情報共有タイプ②登下校確認タイプ③通学見守りタイプ④子ども位置常時把握タイプ⑤子ども緊急時駆けつけタイプがあるが、本市が導入を予定するものは、どのタイプか。また、なぜそのタイプを選定したのか</p> <p>(3) 導入までの今後の予定（タイムスケジュール）は</p> <p>(4) 導入に伴う予算、導入後システムを維持していく予算はどれくらいか</p> <p>2. 子育て支援について</p> <p>(1) 2016年度の本市の児童福祉費の決算額は、また、2021年度と比較してどうか</p> <p>(2) 本市の子どもの数（15歳未満人口）は、2017年1月、2022年1月、それぞれ何人か。また、新聞記事で、九州内で27市町村が子どもが増えたとあったが、本市は含まれているか</p> <p>(3) 子ども医療費の無償化について、どのように取り組んでいるか</p> <p>(4) 子育て世帯へのおむつの無償化について、どのように考えているか</p> <p>(5) 第2子以降の保育料の無償化を検討しているか</p> <p>(6) 中学校の給食費及び小学校の給食費の無償化について、どのように考えているか</p> <p>(7) 心のふるさと館の観覧料の無償化を検討しているか</p> <p>(8) 本市の、保育士支援施策について教えてください</p> <p>(9) 児童手当の拡充についてどのように考えているか</p>

平田 不二香	<p>1. 子どもたちの健やかな成長を促す大野城市であるために</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 医療的ケア児に対する支援について (2) 子ども医療費について (3) 熱中症予防について
岡部 かおり	<p>1. 大野城総合公園の使いやすい施設づくりについて</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 福岡自治研修センター（まなびのやど福岡）と、大野城総合公園との連携について (2) まどか号大城ルートについて <p>2. 高齢者の社会参加について</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 高齢者の社会参加について市の考えを伺う (2) 高齢化社会における難聴者のためのバリアフリーの重要性について伺う (3) 補聴器の使用による認知症進行抑制について伺う (4) 加齢性難聴者の補聴器補助金助成について伺う
福澤 信光	<p>1. 生活道路及び通学路に隣接した道路の安全確保並びに交通マナーの徹底について</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 広域幹線道路及び市内幹線道路の違いとそれぞれの事業中の本数は (2) 広域幹線道路及び市内幹線道路また、いわゆる生活道路の状況把握はできているのか。加えて生活道路の整備計画は (3) 広域幹線道路及び市内幹線道路が渋滞することにより、抜け道として生活道路を利用する車両が多くみられる。この事を踏まえて、抜け道・裏道として利用されている生活道路の想定被害についてどう考えるか (4) 本市は近年、連続立体交差事業を始め様々な整備を実施し、街の景観も見栄えがするようになった。また、大きな道路、いわゆる幹線道路も整備がされた。しかし、生活道路に関して、例えばガードレールのサビが酷く管理が行き届いていない所が市内各地で多数見受けられる。こういった生活道路の劣化した部分を改善することが、景観も良くなる第一歩だと考えるが、市としての見解は (5) 最近、横断歩道で信号が変わるのを待つ子供たちのマナーに対して気になる点がある。教育部として児童生徒に対する指導はどのようにしているのか (6) 幹線道路が渋滞しているため、生活道路を抜け道として使う車に対して、注意喚起看板の設置や道路にハンプ（凸部）を設け通りにくくするなどの対応は出来ないのか
中村 真一	<p>1. 子ども・子育て支援の充実について</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 子育て短期支援事業について (2) 子育て短期支援臨時特例事業について (3) 子育て短期支援事業、子育て短期支援臨時特例事業の今後の周知について (4) 令和6年4月に改正児童福祉法の施行が予定されているが、子ども・子育て支援について今後どのように考えていますか
河野 敏生	<p>1. 大野城市立小中学校の教員の定数欠員問題について</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 大野城市の小中学校の教員の定数欠員の状況について

	<p>(2) 教職員の定数欠員問題の根本的解決のための、教職員の働き方改革について</p> <p>2. お弁当を準備できない中学生について</p> <p>(1) 就学援助家庭の生徒の実態について</p> <p>(2) 過去において、「お弁当を持ってこないことでのいじめ」や「まわりの目を気にして、睡眠時間を削ってお弁当をつくり続けていた保護者」等の話を聞いたことがあります。大野城市はそのような中学生の昼食に関する問題がありますか</p> <p>(3) 中学生の昼食に関する問題を解決するために</p>
<p>中村 慎一郎</p>	<p>1. 食事に関するアンケート調査の精度向上と目的の明確化について</p> <p>(1) アンケートの目的と分析結果について、日常の食習慣というプライベートな案件とランチ給食の満足度調査は、目的が異なっており、それぞれわけて実施するべきではないか</p> <p>(2) 統計資料として回答対象者の総数と回答率は必須であり、今後の資料としての価値を担保するためにもアンケート調査の項目は吟味すべきだが、他自治体のアンケート調査の項目については比較検討されたか</p> <p>(3) 同様の調査を小学校において実施しているのか。またその内容について公表することはないのか。もし調査を実施しているとすれば、中学校でも小学校同様の全員制給食を希望する小学校の児童及び保護者の割合はどの程度か</p> <p>2. まどか号の運行状況と南ルート開設の要件および広域連携について</p> <p>(1) 南ルートの開設については長年にわたり要望があっていると思われるが、地域の高齢化が進行しているなかで、開設要件の整理がなされているか、またその進捗状況についてお聞きしたい</p> <p>(2) 春日市や太宰府市とのコミュニティバスの相互乗り入れおよび広域連携の進捗状況について、伺いたい</p> <p>(3) 新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行に伴い、制限された生活も日常に戻り始めているが、まどか号の運行本数の現状と通常ダイヤへの移行の期日は決まっているのか</p> <p>(4) ふれあい号、おげんき号、なかよし号の利用状況について現状を知りたい</p>
<p>永利 恭子</p>	<p>1. 「未来をひらくにぎわいとやすらぎのコミュニティ都市」の具体的内容について</p> <p>(1) 大野城市は市の目指すべき将来像をどのように考えているのか抽象的でわかりにくいとの声を聞きます</p> <p>(2) コミュニティ（共同体）の形成・維持のためには構成員相互のコミュニケーションすなわち対話が必要だと思います。 市と一般市民との相互理解を図るため、タウンミーティングを行うなど市長が一般市民と対話をする機会を設けてはとありますが、いかがですか。 市長の考えを教えていただきたい</p> <p>2. 中学校で昼食を食べていない子どもたちについて</p> <p>(1) 令和4年度の中学生の食事に関するアンケートによると、1週間に何</p>

日、昼食を食べていますかという質問に対して、週に2～3日と回答した生徒が0.4%約10人、ほとんど食べていないと回答した生徒も0.4%約10人もいるとのことです

(2) 太宰府市は、ホームページなどによりますと、民間給食事業者からのデリバリー方式による全員喫食での完全給食を令和6年1月から開始すべく準備中とのことです。太宰府市から大野城市に対して「一緒にやりませんか」と呼びかけはなかったのでしょうか

(3) 食事を3食きちんと食べていない生徒がいる現状において、現在のお昼ごはんの選択制に、全員制給食を上回る積極的な理由があるか教えていただきたい

○本会議（4日目）一般質問

令和5年6月20日（火） 午前9時30分（於 議 場）

議員氏名	件 名
河村 康之	1. 先の統一地方選挙における投票について (1) 先の統一地方選挙の投票率等について (2) 投票所入場券と選挙公報、期日前投票の手続について (3) 選挙の告示前と告示後の活動について 2. 福岡県手話言語条例の施行による本市の手話言語の普及と今後の取組みについて (1) 手話言語条例の施行と本市の取組みについて
大塚 みどり	1. 国民健康保険について (1) 国民健康保険の現状と取組について
松崎 百合子	1. 小中学生へ最高の自校式給食の提供について (1) 本市の小学校給食は、自校式で子ども、保護者、教職員など各方面から美味しいと高い評価を聞いています。本市小学校給食は子どもたちへ贈る最高の給食ではないでしょうか。お考えを市長に伺います (2) 2021年5月の文科省調査では、福岡県内中学校において313校94.8%が完全給食、本市5校を含む17校5.2%がミルク給食となっています。本市は県に対して完全給食への分類を申請するとのことでした。その進捗状況はどうでしょうか (3) 2021年5月の文科省調査では、完全給食の福岡県内中学校313校において、自校式給食は142校45.4%で実施されています。2018年に自校式給食のメリットについて伺いました。災害時に給食室が利用できるなど自校式の新たなメリットも注目されています。改めて自校式給食のメリットとデメリットについてお聞かせ下さい (4) 中学校において、財政面から自校式給食ができない理由があるのでしょうか (5) 中学校において、敷地面から自校式給食ができない学校があるのでしょうか。大阪市は、中学校給食を2019年度までに大阪市独自の全校学校調理方式へ移行しました。本市においても、自校式および近くの小学校または中学校において自校を含む複数校分を調理し配送する親子式との組み合わせにより、学校調理方式が可能ではないでしょうか (6) 中学校給食選択制度向上委員会の主な設置目的は、「中学校給食選択制度の魅力向上を図るため」とされています。県内でもセンター式から自校式へ移行の学校が増えています。選択制（弁当併用制）自校式給食を実施している千葉県松戸市では95%が給食を選択されています。選択制としても美味しい自校式給食の提供により給食が選ばれます。ランチ給食サービスにとらわれず、最高の中学校給食選択制について、検討するべきではないでしょうか 2. 高齢者等の通院等外出支援と公共交通の充実について (1) 坂道が多い南地区、東地区において高齢者等の外出や交通が不便であるとの声を聞きますが、市のお考えを伺います

	<p>(2) 日の浦池線の開通計画はどのようなになっているでしょうか。日の浦池線の開通後、南地区におけるまどか号運行の検討・計画はどうでしょうか</p> <p>(3) 県内の自治体でオンデマンドタクシー等が広がっています。本市でも多くの高齢者が免許証返納後の外出に不安をもっておられます。予約により必要な時に必要な地域へ行けるオンデマンド交通の導入が必要と考えます、市のお考えや計画はいかがでしょうか</p> <p>3. 個人情報の保護と自衛隊等へ名簿提供について</p> <p>(1) 福岡県の 37%22 の市町村が、就職年齢の 18 歳や 22 歳の住民の個人情報を自衛隊へ提供したと報じられました（西日本新聞 2023 年 5 月 11 日）。本市の対応はどのようなになっているでしょうか</p> <p>(2) 本市に対して自衛隊の要請はどのようなになっていますでしょうか</p> <p>(3) 今後も自衛隊からの名簿提供の要請が考えられます。住民基本台帳法に沿って市民の個人情報が守られるべきと考えますが、いかがでしょうか</p>
平井 信太郎	<p>1. 義務教育に於ける小中学校給食の無償化を見据えた対応と今後の中学校給食について</p> <p>(1) 小中学校給食費の無償化実現について</p> <p>(2) 給食費を無償化した場合の財源について</p> <p>(3) 今後の中学校給食について</p> <p>(4) 義務教育に於ける小中学校給食の無償化と、中学校の選択制給食の普及向上について、市長の見解をお聞きします</p>
神田 徳良	<p>1. 自転車用ヘルメットについて</p> <p>(1) 本市において、自転車用ヘルメットの着用率はどれくらいか</p> <p>(2) 自転車用ヘルメットを購入する際の補助金は検討できないか</p> <p>2. 小中学校のタブレット端末について</p> <p>(1) 小学校および中学校において、タブレット端末の使用頻度はどうなっているか</p> <p>(2) 今後のタブレット端末の活用の頻度をあげるための取り組みは</p> <p>(3) 不登校児童生徒に対しては、タブレット端末をどのように活用しているか</p> <p>3. 小中学校の特別支援学級の介助員について</p> <p>(1) 小中学校の特別支援学級の介助員の現状は</p> <p>(2) 特別支援学級の児童数の増加に伴う介助員の配置人数は適切か</p> <p>4. 適応指導教室について</p> <p>(1) 不登校児童生徒の居場所である適応指導教室数は、不登校児童生徒数に対して適切な数か</p>

原田 真光	<p>1. 公園の利活用と安全管理について</p> <p>(1) 公園の利活用について</p> <p>(2) 公園の安全管理について</p> <p>2. ふるさと納税について</p> <p>(1) ふるさと納税の収支について</p> <p>(2) 本市に対するふるさと納税の寄附金を増加させる取り組みについて</p>
松崎 正和	<p>1. 小中学校の給食無償化について</p> <p>(1) 急激な物価高騰の中、全国各自治体の公立小中学校での給食無償化が進んでいる。</p> <p>ある新聞社の調査では、2022年度に、複数月や通年等、何らかの形で無償化を実施した自治体は、小中学校給食を実施する全国約1,600市区町村の約3割に当たる451に上ったとのこと。</p> <p>このような状況の中で、市長は「給食の無償化」に対してどのような考えをお持ちか伺いたい</p> <p>(2) 政府は、本年 2023 年 3 月 31 日に少子化対策のたたき台として、公立小中学校での給食費の無償化を正式に公表した。開始時期は未定だが、おそらく、まもなく発表されるであろう「骨太の方針」に盛り込まれることが予測される。</p> <p>この全国公立小中学校の給食無償化は、児童手当の拡充などと並ぶ、少子化対策の目玉の一つと位置付けされていることから、今後国の施策として多くの自治体の実施に向けた検討を始めるだろう。</p> <p>このような現状を踏まえ、市長は大野城市の小中学校の給食無償化に取り組む考えはあるか</p> <p>(3) 大野城市の中学校の昼食は選択制で、給食費を負担しているのは全生徒の3割弱、7割強は家庭弁当等自前での昼食。この状況では、中学校給食の無償化はあり得ないと思うがどうか</p>
山上 高昭	<p>1. 次の50年に向けて</p> <p>(1) 市制50周年について</p> <p>(2) 選挙について</p> <p>(3) 大野城市の歴史について</p>